

e-手仕事図鑑 体験学習を実施する方々の為の 指導者マニュアル



平成29年 4月改訂

富山インターネット市民塾推進協議会

指導者マニュアルの目的

このマニュアルは、e-手仕事図鑑を活かした小学生や中学生を対象とした体験学習活動を計画される方々のために、具体的な事例を通して、活動の内容や活動の意義を知って頂くために企画されました。

このマニュアルを読まれる前に、指導要領を読んでいただければ、このような活動の中に意図される「キャリア教育」や「情報教育」の内容、さらには協働作業を通しての協調性や社会性の育成などについてより理解が深まります。

具体的な事例としては、富山で実施した「笛づくり『新月』さんを訪ねて」を事例として取り上げました。

事前学習—体験学習—事後学習

- 事前学習として、体験学習を実際に行う前に、このサイトにある多くのe-手仕事図鑑を活用して手仕事についての学習を行い、手仕事という働きかたの理解や、様々な手仕事に対する興味関心を高めておく事で、その後の体験学習活動の内容が充実します。学校教育の中で比較的時間が確保できる場合は、そのような計画が望ましいと思います。事後学習についても、体験学習の結果を他の手仕事と比較して、働き方を考える授業など様々な授業が考えられます。
- しかしながら、社会教育などで、特に夏休みや週末の体験活動として実施する場合には、必ずしも十分な事前・事後学習の時間が確保できません。多くは一日の体験学習です。ここに取り上げた事例も事前・体験・事後を一日の活動で実施しました。
- 指導要領のカリキュラムと実施計画の項を参考にして下さい。

事前の準備は怠りなく

- 手仕事体験に協力して下さる職人さんへ

事前に活動の目的や内容、参加人数をお知らせして理解を得ておく。また活動の注意事項、写真撮影の許可、安全への配慮などについても十分聞いておく。

事前学習の教材づくりに関しての協力をお願いする。
今回は作業時の音、写真などを事前に教材化。

- 学校、PTA・保護者への案内

体験講座の主旨を説明し、参加希望者の募集に関する協力や学校のキャリア教育との連携等。参加募集の案内や参加者およびその保護者への案内は、指導者ガイドの教材参照

- サポート体制

グループ活動の学習支援や活動の安全を図る目的で、受講者数に応じたサポーターの準備が必要。3,4人のグループに一人程度。

活動に入る前に

- 自己紹介やアイスブレイク

体験学習当日、普通の教室での授業と異なり、初めて会う友達も多い。最初は、緊張を解しお互い仲良くなるために、自己紹介やアイスブレイクなどの活動を行う。

- グループ分け

体験学習はグループで行う。グループ分けは事前に、指導者側で年齢、学校、性別などを考慮して考えておく。グループ活動での役割分担を通して、協調性や社会性を育てることも本活動のねらいの一つ。

- 一日の体験学習の流れを理解する

一日の学習は長時間にわたる。各活動の内容を簡単に説明することと最終の達成目標を明確にしておくことが重要。活動にはメモを取ることが大事なことも理解させる。

興味関心を高める工夫

- 活動の目的を理解

本日の体験学習は「笛づくり『新月』さん」を取材し、笛づくりや笛づくりに取り組む職人さんの志を多くの友だちに伝える記事を書くこと。

- 笛づくりへの興味関心を高める

1) 事前に収録した作業時の音を聞かせ、どんな作業をしているのか想像してみる。

2) 作られた笛を見せて、どのように作るのかを考える。

3) 写真を見せて笛づくりへの興味をより高める。



取材活動への準備

- 質問事項をまとめる

- 1) 笛づくりへの関心が高まった所で、各自どんなことを聞いてみたいかを書き出します。

- 2) 各自の質問をグループで出し合い、グループとしての質問にまとめます。質問をする担当もお互いで決めておきます。

- 取材時の注意事項を徹底する

- 1) 作業場に入る前には、挨拶を忘れずに

- 2) 作業場のものは、さわらない

- 3) 作業場では、さわがない、走らない

- リーダを決めて、全員であいさつの練習をしておく

今日は取材に来ました。よろしくお願いします(号令)

今日はお忙しい中、ありがとうございました(号令)

写真撮影を学ぶ

- デジカメ、タブレット端末、スマホ等ので記録を

取材の記録用として、上記の端末をグループごとに用意し、その操作方法を教えます。枚数にはほとんど制限が無いので、伝えたいシーンをアップにしたり引いたり、多くとっておくことが大事。

- 基本操作を学ぶ

電源、ピント合わせ、ズーム機能、ブレない姿勢、光のあたり方など、撮影の基本を指導する

- 撮影のマナー

写真を撮っていいですか？と撮影の許可を求める。フラッシュなど作業に影響を与えないよう事前のチェックも必要

笛づくりの職人さんを訪問

- 「新月」5代目 松岡 正樹 さん

富山県高岡市福岡町の笛づくり「新月」5代目 松岡 正樹 さんを訪問し、笛づくりや笛作りにかける松岡さんの思いを取材しました。

- 一子相伝の笛づくり

「新月」は幕末より、一子相伝の笛づくり職人としてとして、雅楽・能楽・獅子舞・祇園などさまざまな笛を作っています。

笛づくりを実際に見学

- 作業を見学、笛づくりのお話を聞く

1) 各班ごとに作業場で笛づくりの工程を見学。所々で、笛づくりの難しさや楽しさを笛師の松岡さんが分かりやすく子どもたちに話して下さった。笛師は笛を作るだけではなく笛を吹くことも出来なければ良い笛は作れない。

2) 事前学習で決めた質問をグループごとに。メモやデジカメの撮影も忘れずに。

- グループごとに分かれて活動

今回は、笛づくりの作業スペースの関係で2グループずつに分かれて松岡さんの笛づくり作業を見学した。その間、残りの2グループは別の指導者が引率し、笛づくりの材料となる竹置き場や笛の塗りの作業場などを見学した。

- 休憩時間にもメモの整理

休憩時間にも松岡さんの話や作業場見学で分かったこと、気のついたことを整理するなど、子どもたちは熱心に取材活動に取り組んだ。

取材活動を記事にまとめる

- 記事の構想づくりと写真の選定

子どもたちはたくさんの写真を撮って来ました。グループごとに、これらの写真とメモを見ながら、記事に書く内容を決めます。まず、記事に使う写真を、はじめは10枚に絞ります。その中から最終的に記事で取り上げる3枚を選びます。思いを伝えるにはどのような写真がよいかを考えることは情報教育の目標でもある情報活用の実践力の育成、特にメディアリテラシーの育成につながります。

- 記事のレイアウトを考える

今回は、最終的にA0の模造紙に写真3枚と文書で、記事をまとめ、発表するのが目的です。各班ごとに、レイアウトを考え、メモをもとに、記事を作成しました。

発表会

- グループごとに発表

各班ごとにまとめた記事を代表が発表します。自分たちの記事を友だちに分かりやすく伝えることも情報教育の目標のひとつです。聴衆への視線、大きな声、適当な速さ等、発表の仕方の基本も指導するようにします。

また、グループごとに記事の観点が違います。笛づくりをどのように伝えるか、それぞれのグループの観点を指導者がうまくフォローすることで、笛づくりという手仕事への理解が深まります。

発表後は皆で拍手も忘れずに。

- 発表を聞き感想をまとめる

他のグループの発表を聞き、各自が感想をまとめます。感想はあらかじめ準備されたワークシートに記入させます。笛づくりという同じ取材でも、視点の違いで内容の異なる記事になることを理解することは、メディアリテラシーの育成に重要です。

発展学習へ

今回は、夏休みなどの体験学習活動での事例をもとに、具体的な内容について説明致しました。

しかしながら、e-手仕事図鑑を活かした学習活動は、指導要領でも述べられているように、いろいろな形が考えられます。

今回のような一日の体験学習であっても、その成果としての記事をインターネットに掲載し、事後に学校で、その記事を元に手仕事に対する授業を展開したり、**家庭で体験学習の振り返り**を家族で行うことも可能です。

e-手仕事図鑑が**キャリア教育や情報教育に活用されるのみならず、地域の交流や絆づくりにも役立**ていただければ幸いです。